

2024年6月21日

各位

東京都千代田区麹町三丁目2番4号  
会社名 株式会社スリー・ディー・マトリックス  
代表者名 代表取締役社長 岡田 淳  
(コード番号: 7777)  
問合せ先 取締役 新井 友行  
電話番号 03 (3511) 3440

## 北海道大学ワクチン研究開発拠点との国産ワクチン開発を目的とした 共同研究開始のお知らせ

株式会社スリー・ディー・マトリックス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：岡田淳、以下「当社」）は、国立大学法人北海道大学創成研究機構ワクチン研究開発拠点（Institute for Vaccine Research and Development: IVReD/アイブレッド、以下「IVReD」）と、国産ワクチン開発を目的として共同研究を開始することをお知らせします。

本共同研究においては、各種ワクチンによる防御免疫反応を高め、副作用を伴う強力なアジュバント（主剤の効果向上並びに補助を目的として併用される物質）の反応性を排除することで、効率的かつ安全なワクチンデリバリーシステムを開発することを目的としています。当社のコア技術である「自己組織化ペプチド」は、ドラッグデリバリーの効率と安全性を高めるために、体内のワクチンとアジュバントの濃度を持続させる重要な役割を果たすと考えられます。

本共同研究における「自己組織化ペプチド」は吸収性局所止血材（ピュアスタット）として日米欧において薬事承認を取得し、その豊富な臨床使用実績より、国産ワクチンへの早期の応用が期待されます。

これまで他の機関との共同研究プロジェクトでは、ウイルス感染症に対するいくつかのワクチンに当社の「自己組織化ペプチド」を用いることにより、より強い防御免疫反応を引き出し、強力なアジュバントの反応原性を排除できることを見出しております。この結果より、同じレベルの免疫を獲得するために必要なワクチンの接種回数を減らすことができ、患者の負担を軽減することができる可能性があります。また、輸送・保管時のコールドチェーンが不要になり、世界中のより多くの人々がワクチンの恩恵を受けられるようになる可能性や、各種ワクチンの経鼻投与ができるようになる可能性もあります。

当社の自己組織化ペプチドを用いた新しいワクチンデリバリーシステムが、より効率的かつ安全な国産ワクチン開発のプラグアンドプレイプラットフォームとなることを期待しております。

なお、本件による通期の業績および中期経営計画への影響はございません。

#### ■IVReD について

IVReD は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業」において、東京大学をフラッグシップ拠点とし、北海道大学が大阪大学、千葉大学、長崎大学とともにシナジー拠点として採択されたことに伴い、2022年10月に北海道大学の運営組織である創成研究機構に設置されました。IVReD では、澤洋文拠点長を中心に、ヒトに感染症を引き起こす可能性のある病原体のライブラリーをあらかじめ整備し、ワクチン開発に資する基礎研究を推進するとともに、学内外の関係機関との協力および連携によって得られた成果を導出し、社会実装する体制を構築します。

#### ■ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業について

2021年6月1日に閣議決定された「ワクチン開発・生産体制強化戦略」を踏まえ、国産ワクチンの実現に向け、これまでにない世界トップレベル研究開発拠点や研究開発をサポートする機関の整備等を行うとともに、平時から同研究拠点を中心として、出口を見据えた関連研究を強化・推進することを目的とした事業です。

以上